



大阪府医師会発

# けんこう情報



# 破傷風



破傷風菌

◆破傷風とは、破傷風菌という細菌が産生する強力な神経毒素が原因で、かかった場合に亡くなる割合が非常に高い病気です。

◆破傷風菌は世界中の土壌や動物の腸管等に広く存在しており、怪我した部位が泥土等で汚染する、あるいは動物に咬まれる、といったことが、感染するきっかけになります。野外活動が増える季節には特に注意が必要です。

◆傷口に入った細菌が僅かな量であっても、傷の中で増殖し、やがて発症する危険があり、この場合、発症するまでに3週間かかることもあります。

◆国立感染症研究所によると、患者さんは、ほとんどが高齢者つまり定期接種が始まった1968年以前に生まれた人々に集中しており、毎年120人程で推移しています。



◆破傷風菌に感染すると、約80%の患者さんに全身的な症状（全身の筋肉のけいれん・硬直、呼吸困難、脳炎など）がみられ、致命率は10~20%と高いです。破傷風毒素を中和するために、抗破傷風ヒト免疫グロブリンを投与したり、窒息する危険性が高いので、人工呼吸器を装着するといった集中治療が必要になります。

◆破傷風はヒトからヒトへ感染する心配はありませんが、自然に免疫を獲得することはありません。また深々とした大きな傷とは限らず、ガーデニングや家庭菜園といった作業の中での手指の怪我もきっかけになり得ます。



◆予防にはワクチンの接種が不可欠です。ワクチンにより、ほぼ全員が十分な抗体を獲得できる、つまり「完全に予防できる」とされています。我が国では1968年から破傷風ワクチンの定期接種が乳幼児期と学童期に行われるようになりましたが、以下の方々は、かかりつけの医師に相談するなど、任意でのワクチン接種も一度、ご検討くださるとよいと思います。



- 昭和42年（1967年）以前に生まれた方
- 土いじりや野外活動を頻繁にされる方
- 災害現場への救助活動やボランティア等に行かれる方
- 長期海外赴任、途上国への渡航を予定している方